

2025年11月14日

各位

会社名 ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社 代表者名 代表取締役社長 CEO 兼グループ CEO 小野 有理 (コード番号 6699 東証プライム市場) 問合せ先 専務執行役員 CFO 徳原 英真 (TEL 06-6302-8211)

2026年3月期第2四半期(中間期)の業績予想と実績値との差異 並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年5月28日に公表しました2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じました。

これに伴い、直近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、2026年3月期通期連結業績予想について 修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値との差異について

(1)第2四半期(中間期)連結業績予想値と実績値との差異(2025年4月1日~2025年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
	46, 400	750	130	▲ 60	▲ 7. 16
実績値(B)	46, 628	1, 388	1, 146	425	50.46
増 減 額 (B-A)	228	638	1, 016	485	_
増 減 率 (%)	0.5	85. 2	782. 1		_

(2)差異の理由

売上高については、自動車機器事業における、中国及び米国での電動車が唯一の答えではない、ことによる内燃機関搭載車の増産に加え、為替相場円安の影響により増加したものの、エネルギーソリューション事業における海外メーカーの参入、リプレイス販売後ろ倒し等での踊り場により、事業全体でほぼ予定通りの着地となりました。

営業利益については、先ず以て事業全体として毎年全工場で執り行われる社長総点検をど真ん中に世界中総ての傍楽仲間達みんなでいっしょに頑張って取り組む【お客様要求品質第一に徹する】為の不良撲滅、原価低減、経費節減等の諸施策の継続による収益改善、個別事業においては、自動車機器事業で米国の関税影響を受けるもトップセールスを筆頭とした挙社一致お客様接点創造による事業構造改革並びに収益構造改善、エネルギーソリューション事業では市場対応費用改善、これらの取り組み、その結果として業績予想値を638百万円上回りました。

経常利益については、営業利益増加の影響に加え、為替相場変動による為替差益162百万円の営業外収益を計上したことにより、業績予想値を1,016百万円と大きく上回りました。

親会社株主に帰属する中間純利益については、経常利益増加の影響により、税金費用622百万円の計上があったものの、業績予想値を485百万円上回る結果となりました。

2. 連結業績予想の修正について

(1)2026年3月期通期連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
	94, 300	2,000	800	250	29.84
今回発表予想(B)	91, 700	2,000	1, 150	380	45. 07
増減額 (B-A)	▲ 2, 600	0	350	130	_
増減率 (%)	▲ 2.8	_	43.8	52.0	_
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	91, 724	2, 270	1, 467	411	49. 14

(2) 修正の理由

2026 年3月期第2四半期(中間期)の実績を踏まえ、売上高は、自動車機器事業で上期に引き続き内燃機関搭載車の増産は継続傾向であるものの、エネルギーソリューション事業では前述したように、海外メーカー参入本格化の影響による値引き構成でのレッドオーシャンが続くことにより、前回発表予想から減収の見込みです。ただし、ブルーオーシャン戦略ひいては新製品発表によって回復を図ります。

営業利益は、売上高減収の影響はあるものの、引き続き社長筆頭に世界中総ての傍楽仲間達みんなでいっしょにものづくりの省人化等を進め、前回発表予想を維持する見込みです。

経常利益につきましては、為替相場の変動影響により、前回発表予想を上回り、親会社株主に帰属する当期純利益についても、経常利益増加による影響、それに伴う税金費用の見直しを行った結果、前回発表予想を上回る見込みであるため、業績予想値を上方修正いたします。

以上